

厳冬期八ヶ岳中山尾根

計画書整理 No.

期 間：2022年1月29日（土）～1月30日（月）

種 別：個人山行

山 域：八ヶ岳（中山尾根）

参 加 者：鎌田様（ベルニナ山岳会）、関様（ベルニナ山岳会）、河本

コースタイム：

1/29

8:00 横浜 13:01 赤岳山荘 15:38 行者小屋

1/30

6:06 行者小屋（鎌田さん合流） 6:18 中山乗越 7:13 中山尾根取付 10:30 上部岩壁 12:00 終了点

14:02 地蔵の頭 14:35 行者小屋 16:44 赤岳山荘



上部岩壁



中山尾根を振り返る

ベルニナ山岳会の山行に横須賀より河本が参加させて頂いた。関さん河本は29日から、鎌田さんは30日から合流と言う事で、29日は関さんと2人で移動した。この日は特に書く事がないのだが、行者の水場が凍っていて使えなかった。初めての経験であったが関さんが鉱泉まで水を取りに行ってくれた。一緒に行く事を提案したが、私は幕営作業を依頼されたのでそれに専念した。やることなくじっとしていると非常に寒いので、丁寧に地面を均し時間をかけてテント設営。荷物の整理を終えた頃、丁度関さんが戻ってきた。非常にありがたかった。18:00に食事を開始し、特にやる事もないので20:00には就寝。それほど寒さを感じる事もなくグッスリ寝る事ができた。

30日は鎌田さんからのオーダーで、6:30過ぎても現れなかったら2人で行ってくれとの事だった。2人ならつるべでやらねばならないので、前日から気を揉んでいたが、時間通りに現れてくれた。話によると仕事の後、職場から直行して下さったみたいで殆ど寝ていないとの事。無理を押して山行にお付き合い下さって、本当に感謝の言葉もない。という訳で、6:06にスタートした。中山尾根へのアプローチはいたって分かりやすい。中山乗越から60分程尾根を詰めて行くと下部岩壁が現れた。ここで身支度を整えながら、関さんがリードする事を確認。今回はフォローと言うことで幾分緊張がほぐれた。さて、ルート上の1P目だが、正面突破か右の凹角をやるかなのだが、正面は難しいけれどプロテクションが豊富。右は幾分簡単の様に思えたが、プロテクションが乏しい。リードの関さんは攻めあぐね、かなりの時間を要したが、一旦右に出て正面に戻るという選択をした。2P~5Pは簡単な雪稜歩き。私は今回ダブルアックスで挑んだが、こういう所では本当に快適に登れる。時にダブルが邪魔になるが今回はこれが正解だったかも知れない。さてなかなかペースの上まらないまま上部岩壁に辿り着いたのだが、トポ上では右の凹角で1度切って、その後核心のハングをやるようだが、関さんはここを繋げた。核心部はやはりそれなりに悪い繋げてしまったらプレイヤーからクライマーが見えないので、やはりここは1度切った方が無難だったのではないかと思った。ここでもかなりの時間を食ってしまった。さて核心を終え、50m程の雪稜をスタカット気味に肩絡みで繋げ終わりが見え始めた頃、更なる試練が訪れた。トポ上では次のピッチはグレードⅢとなっていたので、完全にリラックスしていたのだが、リードの関さんのザイルがまた止まる。トランシーバーを持っていたので状況を確認したところ、悪くて進めないと言う応答だった。私はそんな筈はないと思っていたし、ベテランの鎌田さんもこの先は悪いところなどないと確信していた。ここでも相当な時間を要したのだが、フォローで登って行くと確かに非常に悪い。私は中山尾根は初めてだったので詳しくは分かりかねるが、恐らくルートを外れた事と思われる。核心のピッチより明らかにこのピッチの方が難しく感じた。体感ではVくらいあったのではないかと推測される。さてそんなこんなで何とか最後のピッチまでたどり着いたが、最後は恐怖のトラバースである。一応ザイルは繋げて行ったが、プロテクションがないので落ちたら大変な事にあるであろう。そこを慎重に超えて地蔵尾根に着いたのが14:10頃と記憶している。尾根に着き後は各自下山を開始。私が3人の中で私が一番遅かったのだが、行者小屋に着いたのが14:35と記憶している。帰路を急ぐ鎌田さんとはここで別れ、私と関さんはテントを撤収後下山、赤岳山荘に16:44到着した。

最後に鎌田さん関さんへ。

今回は私の念願でもあった中山尾根山行にお誘い頂き、誠にありがとうございました。コースタイムはさておき、最後まで体を張ってリードをやりきった関さん本当に素晴らしかったです。敬意を評したいと思います。また毎度の事ですが、鎌田さんから学ぶ事は非常に多いです。今回も色々な事を教えて頂きました。いつも感謝しております。ありがとうございました。また一緒にできれば嬉しいです。宜しくお願い申し上げます。